

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】(ユニット 1階)

事業所番号	2774600650		
法人名	有限会社 介護センターかがやき		
事業所名	グループホームかがやき		
所在地	大阪府柏原市上市3丁目13番16号		
自己評価作成日	平成28年1月27日	評価結果市町村受理日	平成28年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成28年2月25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者の健康管理について主治医や看護師、薬剤師などの意見をもとに、職員が気を配り健康維持に努めている。また、状態が悪化しないように日常生活やレクリエーションに利用者それぞれに合った個別ケアを取り入れている。・他事業(訪問介護・通所介護・居宅介護支援)を同一敷地内に置くことで、多角的なサービス提供がスムーズに行なわれており、また合同行事など単体では難しいことも出来るようになっている。・職員の年齢層に幅があり、年代による感じ方や意見の違いを取りいれられ、利用者から本当の家族のように思ってもらっている。・アットホームで、誰でも気軽に立ち寄れる雰囲気づくりを目指している。・畑や花壇が敷地内にあり、利用者がいつでも自由に自由に安全に利用でき、気分転換やリハビリが行える。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

山がすぐ近くに見え、ぶどう園があるなど自然が豊かな一方、最寄駅から近い良好なアクセスも便利である。一見山荘風な外観、広々とした外回りスペースも行事催行にはうらやましい。建物内も代表者の設計方針が取り入れられて、そこで暮らす利用者、そこで支援する職員の動線にも配慮がされたレイアウトとなっている。当日の訪問調査も利用者の様子、職員の支援を見ながら行えたのが印象的であった。代表者(管理者)のオープンな人柄、生き生きと明るい笑顔で利用者を支援している男性・女性・ベテラン・若年の職員の皆さんに対する家族の感謝と期待も大きい。家庭で気軽に立ち寄れるであり、様々な工夫・アイデア・提案で認知症の方々への支援が行われている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的な雰囲気の中で家事や趣味を通じ住み慣れた自然の多い町で共同生活を楽しみ」を理念とし、業務中常に見える場所へ理念を掲示しており毎朝、職員と管理者で唱和している。	左記のような事業所の理念がホーム内のわかりやすい所に掲示され、理念の通りの家庭的な雰囲気の中で、利用者同士と職員の温かい関係による共同生活が出来上がっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から笑顔で挨拶を心がけ年末年始の挨拶周りやホームの刊行物の配布等を行っている。又自治会掲示板を利用したボランティア(子供会や老人会)の参加をよびかけている。	事業所の広い前庭を利用した「まつり」に近隣住民を呼んだり、中学生の体験学習を受け入れたり、長年にわたる地域との交流が実践されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員や地区会長等と交流を持ったり小中学校などの教育機関との連携を図り体験学習などの受け入れを実施し、地域の方に認知症の人の理解を得られるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回テーマを決め、それに応じた各専門職者や入居者家族からの意見や要望があるまた食事や行事などホームで提供しているサービスを実際に見てもらうことで感想や要望が頂けサービス向上に活かされている。	会議に参加する構成メンバーが多様である。最新の事業所の情報が詳細に文書で報告されている。事業所が取組んでいるコンプライアンスの内容、職員心得など多岐にわたるテーマが取り上げられている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所が近く毎月1回以上は、役所を尋ねる。又情報提供や報告・相談を適時に行い協力関係の構築に取り組んでいる。保護課の方が顔を見に来てくださる。	行政(高齢介護課、福祉指導監査課)との情報交換、個々の利用者に関する相談等、密接な関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームにて考えられる該当ケースを検討し、身体拘束に接触していないか役所にも相談しつつ具体的な事例と共に身体拘束のマニュアルを利用し所内研修の実施に努めている。	拘束をしない支援が行われている。日中は施錠をしていない。利用者個々のADL状況に応じた支援方法についても、拘束に該当しないか、職員間で相談しながら方法を選択している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月第3火曜日にユニット別での研修会にてケースの検討をしている。また申し送りの時間を利用し意見交換を行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者に後見人がついていての方がおられる為、地域包括支援センターの権利擁護担当との係りの中で役割りや制度の説明を受けており実践している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に必ず見学と家族間での話し合いをお願いしている。契約・解約時には、時間を十分に設け説明しており質疑等に納得されるまでお答えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口及び担当者を設置し、介護相談員の受け入れを実施している。運営推進会議の参加を呼びかけ希望者に出席して頂き「かがやきだより」発行し家族の来訪時には意見交換をしている。	家族との連携を重視して、利用者の健康状態や暮らしの様子を、電話や「かがやきだより」を利用し子細な事まで丁寧に家族に報告されている。家族にも安心感がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝・夕の申し送りや勤務時間外にも職員が意見や提案を話せる機会を設けている。毎月、職員全体のケアカンファを行っている。管理者も職員個々に声かけを行っている。	代表者(管理者)による職員に対する職場環境への配慮が感じられる。職員との信頼関係や多様な年齢層の職員間の良好なチームワーク等、笑顔の絶えない明るさとなって表れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は個人の能力把握に努め、それに見合った給与水準や配置を心がけている。人員に余裕を持たせ日々の業務に追われることのないようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人の力量や勤務年数に応じた外部研修の情報を職員「が自由に閲覧できる場所」へ掲示し受講を推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症高齢者グループホーム協議会や柏原・八尾の事業所連絡会に参加している。独自に近隣のグループホームと協力し情報の交換、2ヶ月に1度柏原市のグループホーム事業者と交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に在宅や病院などに職員が訪問し本人や家族、ケアマネージャー等から聞き取りを行っている。又可能であればホームを見学して頂き設備や環境等を詳しく説明し感想・意見を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅や病院訪問での聞き取りとホーム見学を兼ねての聞き取りを行っている。又出来るだけ多くの家族とお話する時間を持ち、それぞれの要望に応じれるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所検討会を開催し利用者と家族のニーズを探しホームでのサービスが一番適しているか他のサービスを利用すべきか十分に話し合っている。又利用者と家族にも説明行い理解と協力を得られるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の利用者への接し方、特に対等な関係についての話し合いを行っている。朝・夕の申し送りの中で職員が介護者に一方的な立場にならないように自己啓発をうながしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員誰もが家族様から接しやすいよう笑顔での挨拶を心がけ気軽に来て頂けるようアットホームな環境作りに努め利用者と家族が気兼ねなく落ち着いたときを過ごせるよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の馴染みの方、知人の方にも気兼ねなく来て頂けるよう声かけしている。職員と以前住まわれていた場所等に買い物の帰りに尋ねたりしている。	利用者がホームに移り住んでからも以前の暮らしの環境が継続できるように、家族の協力を得ながら、居室のしつらえから、知人友人のお付き合いまで、情報を蒐集しての支援を心掛けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	性格や相性などを考慮し食事の席や、お気に入りの場所などの配置に気を配っている。職員が積極的に声かけし孤立する方がいないよう又コミュニケーションに利用者の話を取り入れ利用者同士が係りやすいよう努める		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があった場合は、必要であれば他サービス機関の紹介やアドバイスをしない家族様の不安材料を取り除いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを大切に、希望や意向を拾い上げるように努めているが意思表示できない方については、家族様からも聞きとり行っているまた、ケースカンファレンスにおいても利用者の立場に立って検討している。	先ず、本人と介護する職員の相互の信頼関係が出来るように、職員間で対応方法を相談し、本人が安心できるようなアプローチを積み重ねている。家族から聞き取る本人の生活歴も参考としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族との交流を深め、利用者の生活歴等の把握に極力努め、サービスに活かせるように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケースカンファレンスを行い、職員それぞれの意見を検討し、客観的かつ総合的な利用者の心身状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の希望を取り入れた介護計画の作成に努めている。また必要に応じて、主治医とも連携し、利用者にとって負担のない介護方針を検討し実践に繋げている。	本人及び家族の意向を確認している。かかりつけ医の医療面のアドバイス、前ケアマネからの情報を参考にして、初期の職員との関りから支援目標、支援方法について検討し、計画書を作成している。家族に説明して同意と協力をお願いしている、	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の支援経過記録をもとに状況・状態に応じて別紙を用いて細かな情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一法人の他事業(訪問・通所・居宅支援)それぞれの特性を活かし、外出支援や合同行事、相談などの援助に協力してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練・水害訓練・夜間想定消防訓練、消防との連携。民生委員、認知症高齢者への理解、運営推進会議等の参加教育機関では、職業体験の受け入れボランティア家族さまにて定期的な歌・体操実施。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族様が希望する医療を受診できるように、それぞれの医療機関へグループホームの理解と必要性を説明し、受診や往診、家族への説明等の協力をお願いしている。	利用者および家族の希望を優先してかかりつけ医を選定している。専門医への通院も家族にも協力をお願いしながら事業所で支援している。体調に関してはこまめに家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師に協力頂いている。利用者の症状や変化について相談し、指示時やアドバイスを受けている。又主治医の指示のもとデイの看護師にて点滴を行うこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院の担当医や看護師、ソーシャルワーカーへ速やかに情報(サマリー)を提供し早期退院に向けた医療や看護を依頼している。また、症状の中間報告を受け、退院後の通院や介護方針、服薬などの相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の基本方針として重度やターミナルについての介護範囲を決めている。主治医とも相談し、事業所として可能な介護のあり方を模索し、利用者や家族の希望にあわせて、他サービスや医療を利用するなど柔軟に対応している。	家族の意向と協力があれば終末期にも対応する事業所方針であり、過去に経験がある。入所の段階で重度化に対する方針を説明し家族の意向を確認している。家族の意向に合わせた柔軟な対応を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署に協力してもらい、定期的に救急救命等の実技指導を受けている。緊急時のマニュアルと緊急連絡網を作成し、職員全員へ周知、わかりやすい場所へ掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの作成と年2回の防災訓練の実施にて職員へ周知させている。消防署指導による訓練も行い、地域の方や家族様にも参加していただいている。	防火通報設備、消火設備及びマニュアルは整備されている。消防署の指導を得ながら定期的な消火避難訓練、近隣からの支援体制の構築、備蓄等の災害対策が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から、利用者への言葉遣いや態度についての指導を行っている。プライバシーや個人情報保護に関する規約を定め、周知させている。	事業所独自のコンプライアンスルールを定めて運用している。職員の心得7か条、あいさつ、言葉づかい、身だしなみ、整理整頓等が制定されている。職員同士も「〇〇さん」という呼び方に変更しつつある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの性格や表現方法に合わせたコミュニケーションを心がけ、押し付けにならないよう注意しながら、自ら意思決定しやすい雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務としての規則は、定めているが、それにより利用者にとって強制的とならないよう、配慮している。利用者の希望や体調に合わせて臨機応変な対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の整髪整容や服の着合わせなどの支援を行い、自らも意識してもらうために声かけを行っている。訪問美容院のサービスを利用し本人に合った散髪を受けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調や状態に合わせて、出来ることや、やりたいことを中心に時間をかけて、一緒に行っている。	可能な利用者には食事準備への参加を促している。利用者が寛いでいるすぐ近くで職員が調理をしているので音や匂いによる五感の刺激にも工夫がある。談笑のある楽しい食事風景となっていた。	調査訪問時の昼食は「ちらし寿司」を美味しくいただきました。利用者へ食事中に食材の紹介をして季節を感じてもらい、元主婦でもある女性の利用者に刺激を与える等は如何か。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材とメニューは、食材店の専門栄養士が管理し、アドバイスを受けて提供している。水分(お茶・アクエリアス等)は、1日の目安量をもとに、少しずつ摂取できるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の状態により声掛け・見守り・1部介助・全介助等、毎食後支援している。出来る限り自分でして頂き習慣となるよう支援している。状態により歯科医への受診も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握する為、日頃より排泄の量や間隔を観察・記録し、声かけや誘導等の必要な支援行なっている。	一人ひとりの排泄習慣・特徴を把握し、水分補給も考慮している。特に日中は自立したトイレでの排泄習慣を目指し、頃合いを見計らいながら事前のトイレ誘導が行われていた。夜間は安眠を優先した排泄支援となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師、看護師、薬剤師と相談し、利用者の体調や体質に合わせて、水分量や運動量に気を配った対応を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴場の衛生面から基本の入浴日は、隔日と定めているが、ユニットで交互にしているため、利用者の体調や希望に合わせて、随時変更できるようにしている。時間帯も出来るだけ希望に応じられるよう努めている	ユニットごとに入浴予定日をずらした予定が組まれているので融通が利くようになっている。本人の希望と体調を優先し清拭に切替える等による清潔保持が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせて、自由に居室で休んで頂いている。明かりや空調など、居室ごとで利用者にあった環境に調節し、希望にあった空間づくりを支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や看護師、薬剤師と協力し相談したり説明や指示を受けている。現在の服薬内容や作用等の状況について紙面に記録しており、職員がいつでも確認説明できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションなどに、それぞれの趣味や楽しみにあった物を取り入れている。洗濯や調理等の家事は、都度、職員が声かけをして分担して行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望、体調や天候に応じて、戸外へ出かけるようにしている。敷地内のスペースを利用し、屋外でお茶会等のレクリエーションを行っている。季節ごとにボランティア職員と車での外出も行っている。1階2階にて歩ける方対象に歩こう会発足する。	事業所内で「あるこう会」をつくり外出支援、歩行支援、リハビリの工夫が行われている。個別に手摺につかまったままの膝の屈伸運動もみられた。職員個々のチョットした工夫が感じられた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者、家族様と話し合い、買い物希望の方などでかける際、家族様希望の所持金を持ち自分で選ぶ楽しさなどを実感して頂いている。職員は、それに対し援助行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、いつでも利用できるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用フロアの清掃と消毒を毎日行い、清潔保持し空調管理には常に気を配る。花壇に咲いた草花を飾ったり利用者と一緒に季節感のある飾りつけ行う。	門から建物の間に広いスペースがあり、参加者を多数呼ぶ屋外行事が行える。建物外観が大きく山荘風な感じがする。室内もすべてが広く見通しが利くような設計思想で作られている。天井も高く自然光も豊富に入ってきている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	イスやソファを各所に設置しており、いつでも気に入った場所でくつろいだり、お話ししたりできるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	設備は、必要最低限にとどめている為、居室へは、タンスなどの大きなものも持ちこめる等なじみのもので揃えていただける。	居室は明るく、広さも十分で清潔に保たれていた。家族にもお願いして馴染みの家具、仏壇が持ち込まれていた。自分の住み慣れた部屋の雰囲気を出せるだけ再現する事で利用者の落ち着きと安心感が出てくるような印象がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全体にバリアフリーを実施しており、不要な階段がない。また手すりを各所に設置している。状況に応じ増設または、撤去している。床面は、全てカーペット敷で、万が一の転倒事故による衝撃を和らげる。		